

医薬品の供給安定化に向けて



参議院議員・薬剤師 本田 顕子

春めいた暖かい日々の訪れはまだ少し先になりますが、全国各地で卒業式が行われる季節を迎えました。3月は年度を締め括る時期ですが、それとともに新年度に向けた備えの時期でもあります。

3月2日土曜日、衆議院本会議で令和6年度予算案が可決されました。

令和6年度予算案はいわゆる「3報酬改定」の財源を含め、賃上げ対応や少子化対策などの先送りできない課題対策に加え、能登半島地震の復旧・復興等対応のために予備費を今年に入ってから組替えていますので、4日から始まりました参議院での審議でも円滑な議会運営により速やかな可決・成立につなげたいと思います。

来年度予算案には、依然としてご負担とご心配をおかけしています医薬品の供給回復に向けた取組も含まれています。供給不足が令和3年に顕在化してからは、ジェネリック医薬品関連の予算はそれまでの「使用促進」から「供給・品質」に重点が置かれ、令和4年度以降、補正予算を含め、品質確保の徹底や増産体制の整備等に関する予算事業に取り組んでいます。

また、現下の供給不足は世界的な物価高騰や度重なる薬価改定による採算性の悪化もその主たる要因の一つですので、今回の薬価改定では、①基礎的医薬品の薬価下支え制度の対象範囲の拡充、②平均乖離率7.0%を超えない範囲の品目を対象にした特例的な不採算再算定を行うことになりました。

これらの取組とともに新年度には、厚生労働省ホームページで随時、供給停止や出荷制限に関する情報が公表され、かつ調剤時の供給事情に伴う説明ややむを得ない製剤実施時の報酬上の評価がなされることで、現場の皆様のご負担が少しでも軽減されることを願います。生産から流通に至る複合的な課題を抱える供給問題に対して、私も少量多品目生産など産業構造上の対応策を含め、引き続き医薬品の供給安定化に向けて頑張っていきたいと思います。